



ALPA Japan NEWS

日乗連ニュース

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
事務局
〒144-0043
東京都大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2016.3.24 No. 39-33

マレーシア航空 370 便事故発生後 2 年

1. 行方不明後 2 年を経過

クアラルンプールから北京に向かっていたマレーシア航空 (MH) 370 便が行方不明になって、3 月 8 日で 2 年が経ちました。

同機の捜索の現状と今後の予定をお伝えします。

2. 推定墜落位置は

推定墜落位置は 2 つの算出方法を重ねて定められました。1 つ目は、インド洋の通信衛星との 7 回目 (最後) の通信状態確認のやりとり (Hand Shake) の送受信に要した時間から算出した円弧 (7th Arc) です。2 つ目は、同じやりとりで現れたドップラー効果による周波数変位です。ドップラー効果については、事故当日クアラルンプールを離陸した 7 機の B777 のデータも比較検討に用いられました。この 2 つ目の方法により、ミャンマー、アフガニスタンなどの北西アジアへ向かった可能性は排除され、インド洋南部に向かったと推定されました。

3. 海底捜索は続行

海底捜索は続行されており、現在までに 90,000 km² が完了しています。残念ながら古い難破船など航空に関係無いものしか見つかっておらず、次頁の紫色で囲った範囲のうち残っている 30,000 km² の捜索が、オーストラリア、マレーシアと中国の共同作業で続いています。その部分の捜索は数ヶ月で終了する見込みで、何も発見されなければ海底捜索は終了となり、それ以上の捜索範囲拡大は予定されていません。



4. 漂着した部品は

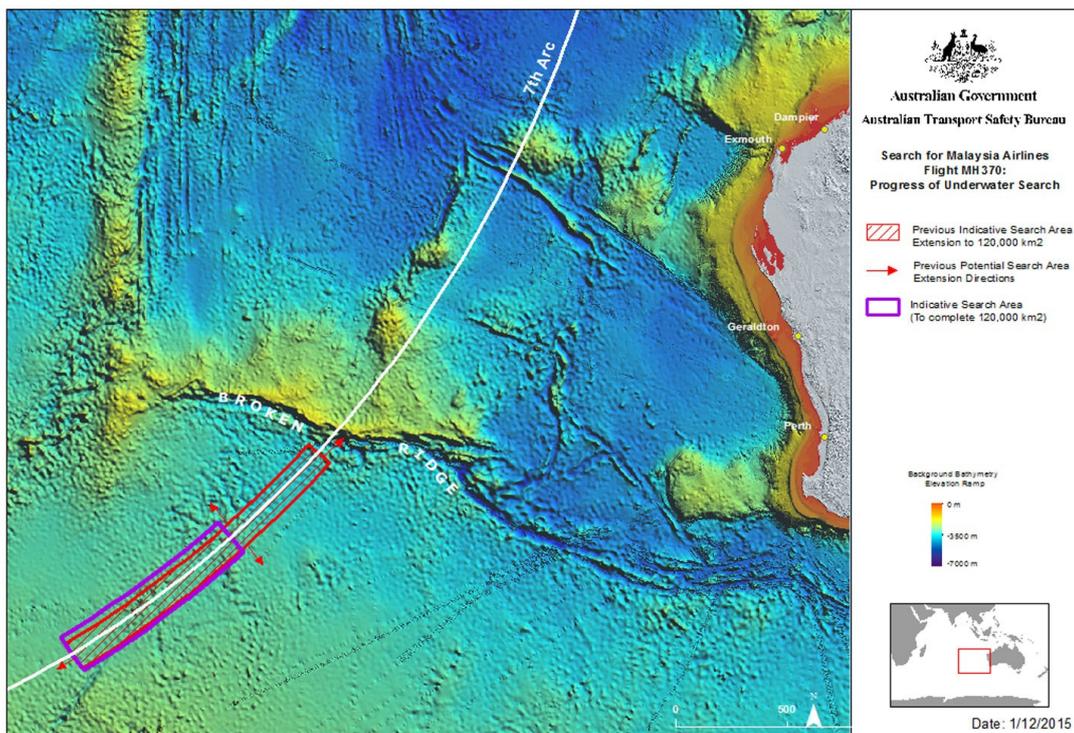
2015年7月アフリカ南東部のレ・ユニオン島で発見された部品は、MH370の主翼の部品の1つであるフラップロンと判断され、オーストラリアに送られて詳細が調べられる予定です。

その後、タイ南東部で発見された部品は、日本のH-2ロケットのいずれかの型式のものとなされ、本件には関係していないようです。

2016年3月にモザンビークで発見された部品はB777の水平安定板の一部のようで、これもオーストラリアに送られて詳細が調査される予定です。

5. 今後の予定

海底搜索の項で書きましたように、搜索範囲の変更や拡大は一切考慮されていません。現在予定されている搜索で何も見つからなければ、今までの調査、搜索の記録をまとめた最終報告書が出される予定です。もし、機体主要部の残骸やデータの記録装置などが発見された場合は、解析に進むものと思われます。



以上